

研究課題名	保存期慢性腎臓病患者におけるエリスロポエチン製剤による腎機能、腎性貧血への影響の観察研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 腎臓内科 氏名 安藤亮一
研究期間	平成 18年 1月 ～ 平成 26年 12月
研究の意義・目的	保存期慢性腎臓病患者はエリスロポエチンの産生低下による腎性貧血をきたす。1990年合成ヒトエリスロポエチン(rHuEPO)であるエポエチンが1990年に発売され、腎性貧血の治療が可能となり、さらに作用時間の延長した持続型赤血球造血刺激因子製剤(Erythropoetin stimulation agent, ESA)が2007年にダルベポエチン、2011年エポエチンベータペゴルとして発売され、利用可能となった。一方で持続型ESA製剤が既存のエポエチンと比較し、腎機能や貧血に対して良好な作用を示すかについては明らかとなっていない。本研究の目的は持続型ESA製剤のダルベポエチン、エポエチンベータペゴルが、既存のESA製剤であるエポエチンと比較し、腎性貧血の管理、腎機能悪化の抑制効果を有するかを観察研究から検討する。
研究の方法 (対象期間含む)	2006年～2014年に当院で血液透析を開始した20歳以上の患者で、血液透析導入前にESA製剤の投与を受けていた患者を対象として、性別、年齢、原疾患、合併症、既往歴、体重、身長、血圧、喫煙の有無、糖尿病の有無の基本情報および、ESA製剤の投与量、臨床検査項目として、クレアチニン、BUN、尿酸、ナトリウム、カリウム、クロール、カルシウム、リン、マグネシウム、アルブミン、CRP、アルカリフォスファターゼ、AST、ALT、総ビリルビン、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪、intactPTHを後ろ向きに、血液透析導入日1年前から導入時までの1年間の推移を調査する。また、併用投与されたRAAS阻害薬、カルシウム拮抗薬、ビタミンD製剤、活性炭製剤、重炭酸製剤、鉄剤の有無、投与量についても検討する。
個人情報の取扱い	集められた情報はすべて匿名化し、解析はすべて匿名化された情報を用いて行う。研究担当者および研究責任者のもとで、個人情報が流出しないように厳重に管理する。
問合せ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 腎臓内科 氏名 大西剛史、安藤亮一 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6813 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525